

人材を戦略的に育成して地域創生を

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

読売新聞の栃木版に「時評」というコラム欄があります。私は、今週2月3日の火曜日にそこに文章を書かせていただきましたので、今日はそのことについてお話をいたします。コラムなのでなるべく地域の経済や教育についての意見を書いてくださいという要請でしたので、次のようなことを書かせていただきました。
2. アベノミクスということばを聞いたことのある方は多いと思います。その3本目の矢に、成長戦略というものがあります。成長戦略として、地方の再生がよく言われていますが、私はその第一歩は地域を支える人材を戦略的に育成することだと思い、このことを読売新聞の栃木版の「時評」に提言させていただきました。
3. 人材育成の基本は、これからの時代に求められるスキルや能力を明らかにして、地域が戦略的に計画を立ててしたたかに育成することだと思います。では、これからの時代はどのような時代かと言いますと、いろいろな方の話によく出てきますが、知識が基盤になった知識基盤社会と、お金や物や人が国境にあまり関係なく移動することができるグローバル化社会だと思います。つまり、知識が基盤になったグローバル社会ですので、これからの社会で必要となるのは、当たり前かもしれませんが、コンピュータと英語だと思います。知識基盤社会ではコンピュータの能力が、グローバル化社会では英語の能力が不可欠だと思います。
4. コンピュータについてはどのような能力が必要かと言いますと、まずは、電源を入れる・文字を入力する・簡単なデータ処理をするなどのパソコンの基礎や簡単な操作はわかったほうがよいと思います。その中にはメールの使い方も入るかもしれません。そのあとは、文書作成の基礎であるワードの初級を身に着けたほうがよいです。更には、表計算などをしていろいろな分析に役立つエクセルの初級です。パソコンの基礎と文書作成のワード初級と表計算のエクセル初級の3つは、これから仕事に就きたい人・再就職を目指す人・現在仕事に就いている人もわりと身に着いていないので、できる限り身に着きたいスキルだと思います。

5. また、グローバル化社会に対応するには英語が必要ですが、中学校卒業から高校1年生ぐらいまでに学ぶレベルの英語によるコミュニケーション能力もつけたいです。日本の学校や日本人は、読んだり簡単なことを聞いたりすることは得意ですが、話すことと書くことは非常に不得意です。中学校卒業から高校1年生ぐらいまでのレベルによる英語でのコミュニケーションの中身として、特にこれからは英語を書いたり話したりする能力が必要だと思います。ですから、企業・自治体・地域社会が先ほどお話をしたコンピュータと英語のスキルや能力を身に着けることを支援していただければと思います。
6. 更には、専門領域も大事です。仕事自体の専門領域の知識や技術を人から言われて嫌々ではなく、自ら進んで主体的に学ぶ力を身に着けることも大事だと思います。ですから、専門知識の簡単なもの、専門技術の簡単なものを自ら進んで主体的に学ぶ力を身に着けること、これをみんなで支援することを提言させていただきたいと思います。ただ、それだけだと新しい時代に対応できませんので、最新の知識や技術も自ら進んで主体的に学び続ける能力を身に着けることが大事です。そうすると、更に能力強化に役立つと思います。
7. それから、今までは生産年齢は15歳から64歳までと言われてきましたが、これを65歳以上にまで広げるべきだと思います。これは新しい考えだと思いますが、私は、生産年齢の定義、つまり言葉の意味を15歳から85歳までとし、今よりも21年拡大することを提言したいと思います。
8. 同時に、1週間に8時間以上働く人をもっともっと増やすとよいと思います。1週間に8時間以上労働に参加する率のことを労働参加率と言いますが、これを大幅に引き上げることも大事ではないかと思います。日本は少子高齢化で64歳までの人口が減って大問題になってきていますので、生産年齢を見直して85歳までにしたり、適正な能力が評価された人々の労働参加率をもっともっと上げていって100%に近いような形にしたりすれば、企業の人手不足の解消にとっても役立つのではないかと思います。また、雇用を生みますので、地域の経済の活性化や地域創生に役立つのではないかと思います。
9. さらに言いたいことは、地域には企業・市役所・介護施設など働く場所が山ほどあると思いますので、それらが働きたい人々のキャリアの形成を全面的に支援することです。例えば、この会社はキャリアの形成を全面的に支援します・この自治体はキャリアの形成を全面的に支援しますという宣言をして、みんなで働くことを押し進めてはどうかと思います。これが私の地域創生についての一つの考えで、地域の人材を戦略的に育成するということです。
10. これらのことを今週火曜日の読売新聞の「時評」に書かせていただきましたので、参考にいただければと思います。